



# ききょうだより

令和2年  
11月27日  
第8号

教育目標 『磨き 輝き 未来をともに拓く』

校長 山田 和弘

## やりぬく子「夢を育てる教育」 ～4年目を迎えた、「ふるさと美山」出会い・ふれ合い活動～



＜6年 やまがたフットパス 山口晋一さん＞



＜1年 富波保育園長 伊藤徳子さん＞



＜2年 西武芸警察官駐在所 平田一裕さん＞



＜3年 ミズタニバルブ社長 水谷真也さん＞



＜4年 キミドリ建築社長 恩田吉行さん＞



＜5年 ふれあいバザール 藤田好江さん＞

今年で4年目を迎えた「ふるさと美山」出会い・ふれ合い活動が、11月4日～25日に学年ごとに行われました。例年は、土曜参観を兼ね、保護者の方にも参加していただいていましたが、本年度は感染症予防対策のため、子供たちだけの会となりました。

『美山地区に住んでみえる方や、働いてみえる方の生き方や考え方、願いを知ることで、美山地区を大切にする心を育むとともに、自らの今後の生き方をみつめることができる。』  
この活動のねらいのもと、講師の方々のお話を聞きしました。実際に作業の体験をしたり、普段使ってみえるもの・製作された製品・販売されている商品などを触らせていただいたりしました。また、子供たちも一緒に楽しめる体験もしました。活動の最後には、たくさんの質問に答えていただきました。

後日、講師の先生方に手紙を書きました。講師の方の話を聞いて初めて知ったこと、仕事で大変なこと・うれしかったこと、講師の方への感謝の気持ち、ふるさと美山の自然を守り続ける決意など、今回の体験から学んだことや、素直な感想をたくさん書くことができました。

これから社会は、AI（人工知能）、ロボット、ICT機器等の導入で、様々な仕事がなくなると言われています。しかし、様々な機器が導入されても、それらを活用する人の心を育てていく必要があります。地域で生きる人の願いや思い、その実現に向けて新たな活動を生み出す意志、学び続ける意欲を、人生の先輩から受け継いでいってほしいと願っています。「ふるさと美山」出会い・ふれ合い活動は、本校のふるさと教育・キャリア教育の柱として、今後も継続して取り組みます。

今回の体験について、ぜひご家庭でも話題としていただきますよう、よろしくお願いいたします。

＜1年 川崎 蓮斗さん＞「えんちょうせんせいへ」

エプロンシアターがおもしろかったです。大きなにんじんでびっくりしました。さいしょはどきどきしたよ。えんちょうせんせいにあえてうれしかったです。ほいくえんのことがしれてよかったです。ありがとうございました。

＜2年 小原 奈々さん＞「ひら田 かずひろさんへ」

わたしは、ひら田さんがいろいろなものをもっていて、びっくりしました。さわったときに、おもかったからびっくりしました。すごくおどろくものがあったから、けいさつかんってすごいんだとおもいました。

＜3年 江川 正汰さん＞「水谷 真也さんへ」

水せんバルブ工場では、じや口を作るだけでなく、あいさつや人づくりをしているなんて、思いもしませんでした。ぼくは、しようらいはバレー選手をやりますが、水せんバルブ工場ではたらきたいと思いました。

＜4年 恩田 幸七さん＞「恩田 吉行さんへ」

キミドリ建築の映像を見て、木がたくさん使われていて、私も「住みたいな。」と思いました。美山の自然を使って工夫しているのすごいと思いました。これからもいろんな家を作ってください。初めてかんなを体験できて、うれしかったです。

＜5年 小森 翔太さん＞「藤田 好江さんへ」

ぼくは、野菜や商品が、全部手作りなのを知りませんでした。次、ふれあいバザールへ行ったら、そばを食べてみたいですね。コロナウイルスがなくなって、にぎやかなふれあいバザールを見に行きたいです。

＜6年 乾 心咲さん＞「山口 晋一さんへ」

山口さんの話を聞いて、自分の暮らしている地域の魅力や場所を知ることができました。そして、山県市の人口が毎年減っていることに驚きました。でも、人口減少を避けようと活動している人々がいることにも驚きました。山口さんのように、地元のために活動して、それを伝えようと努力できる人に私もなりたいです。今日は、本当にありがとうございました。